

なぜ、今、道徳学習が必要か？

1 社会の現状と児童の実態

社会全体のモラルの低下（生命軽視の風潮 自己中心的な価値観の横行）
 家庭や地域社会の教育機能の低下（基本的なしつけの未定着 善悪の判断の未発達
 思いやりの心の弱体化）
 社会体験、自然体験の不足（人とかかわりの希薄化 自然や生き物との交流の減少）
 社会の変化に伴う課題の拡大（情報化社会における影の複雑化（ネット問題、コミュニケーション不足）
 環境問題の深刻化）

道徳教育の充実が必要！

2 これからの道徳教育と本校の基本的な考え

新しい学習指導要領「第1章 総則」

学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全般を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

道徳の時間を中心とした道徳教育の有機的な展開

本校が目指す児童の姿

自らの生命を大切にするとともに、他者の生命も尊重しながら、生命のかけがえのなさに気づき、よりよく生きていこうとする児童

3 本校の研究主題

いのちの大切さを自覚し、よりよい生き方を目指す児童の育成
 ~ 新しい学習指導要領が求める道徳教育の実践 ~

研究仮説

かけがえのない「いのち」が持つ多面的な性質をおさえて全学年で指導するとともに、低学年では「基本的な生活習慣の育成」、中学年では「規範意識の醸成」、高学年では「社会や集団の一員としての役割と責任」を、指導の重点として各教科や領域等で計画的に扱えば、自己のよさや課題を発見しながら、よりよく生きていこうとする児童が育つ。

「いのちの大切さを自覚する」とは

本校における「いのち」の捉え方：全学年共通した重点目標

いのち

《精神的いのち》

人間だからこそ感じることで
 できる「いのち」よりよく生きてい
 こうとする考え方。

《生物的いのち》

あらゆる生き物がもっている
 「いのち」であり、右のような四
 面性をもっている。

- 支え支えられている生命
 （共存性・共生性）
- はかない、一回限りの生命
 （有限性・唯一性）
- 自然的、生物学的存在とし
 ての生命（神秘性・偶然性）
- 受け継ぎ、受け継がれて
 いる生命（連続性・継続性）

生命
 かけがえのない

「よりよい生き方を目指す」とは

発達段階に応じた重点目標の設定

低学年 基本的な生活習慣の育成

中学年 規範意識の醸成

高学年 社会や集団の一員としての役割と責任の自覚

よりよい生き方

総合単元的な道徳学習の構想

重点目標に迫るための内容を、道徳の時間を中心としながら、その他の教科や領域、学校行事等とリンクさせながら、教育活動全体の中で総合単元的に取り扱っていく。（各学年、前期後期各1つずつ構想し、6年間をスパイラルな形で積み上げる。）



研究主題に迫る具体的な実践

授業力の向上

- 道徳授業の充実
- ・道徳の時間の基本的理解
 - ・指導過程（導入 展開前段・後段 終末）
 - ・多様な指導方法の工夫
 - ・いのちの大切さを自覚するための資料開発と発問の工夫
 - 総合単元的な道徳学習の展開
 - ・各学年の重点目標に迫る総合単元的な道徳学習の構想に基づく実践
 - 研究授業を通しての授業研鑽
 - ・低中高学年分科会の同時開催

指導計画の作成

- 新学習指導要領と本校の教育課程に対応した指導計画の作成
- 全体計画の改善
 - 時期と内容を明示する。
 - 価値項目の整理
 - 年間35時間の道徳の時間で、どのように内容を扱っていくか検討する。
 - 資料の選択
 - 新しい副読本などの資料を研究し、指導計画に応じて選択する。
 - 年間指導計画の作成
 - 学校行事や教育活動などと関連させながら指導計画を作成する。

環境の整備

- 「道徳ノート」の活用
- ・心に感じたことを書きとめておく
 - ・ノートを全ての学年で準備する。
 - ・総合単元的な道徳学習における児童の意識の継続化を図る。
 - 資料の整備
 - ・副読本、教材の整理
 - ・すべての教職員で資料を共有できる環境を整える。
 - 校内環境の整備
 - ・重点目標にかかわる掲示物を充実する。